

## 三点比較式臭袋法及びフラスコ法の集計用紙の使い方

◆付臭番号はアトランダムにつけるのが基本ですが、測定機関によっては必ずしもアトランダムになっていないのが現状です。そこで、三点比較式臭袋法とフラスコ法の集計用紙の見本を作成いたしました。集計用紙は各5パターン用意し、以下のとおりシート毎にまとめています。これら集計用紙はそのままお使いいただけるようになっておりますので、ぜひご活用ください。

- 1) 三点比較式臭袋法及びフラスコ法の集計用紙の使い方
- 2) 記入例(三点比較式臭袋法及びフラスコ法の集計用紙)
- 3) 三点比較式臭袋法の集計用紙(No.1~5)
- 4) 三点比較式フラスコ法の集計用紙(No.1~5)

◆測定手順 ~オペレーター1名、測定補助1名の場合~

- (1) オペレーターは、各試料について臭いの質が十分わかり、かつ濃すぎてパネルが嗅覚疲労を起こさないよう、適当な濃度を決めておきます(初期希釈倍数の決定)。
- (2) (1)の該当する希釈倍数の付臭番号欄に書かれている番号の袋(フラスコ)に試料を注入します。
- (3) 一人のパネルに無臭2つと付臭1つの臭袋(フラスコ)を用意し、6名以上で判定試験を行います。
- (4) オペレーターはパネルの判定結果(回答、強度)を集計用紙に転記します。測定補助のひとは集計用紙をみながら付臭袋(フラスコ)だけを廃棄(洗浄)すると、無臭袋(フラスコ)は再利用が可能です。

◆その他の詳細につきましては、嗅覚測定法マニュアル等を参照してください。